

ふるさとの川づくり協働事業

登川 南魚沼市早川地内

南魚沼地域振興局地域整備部(平成 19 年度実施事業)

地域住民の主体的な維持管理活動を後方支援した事例 ②

◎事業の全体像

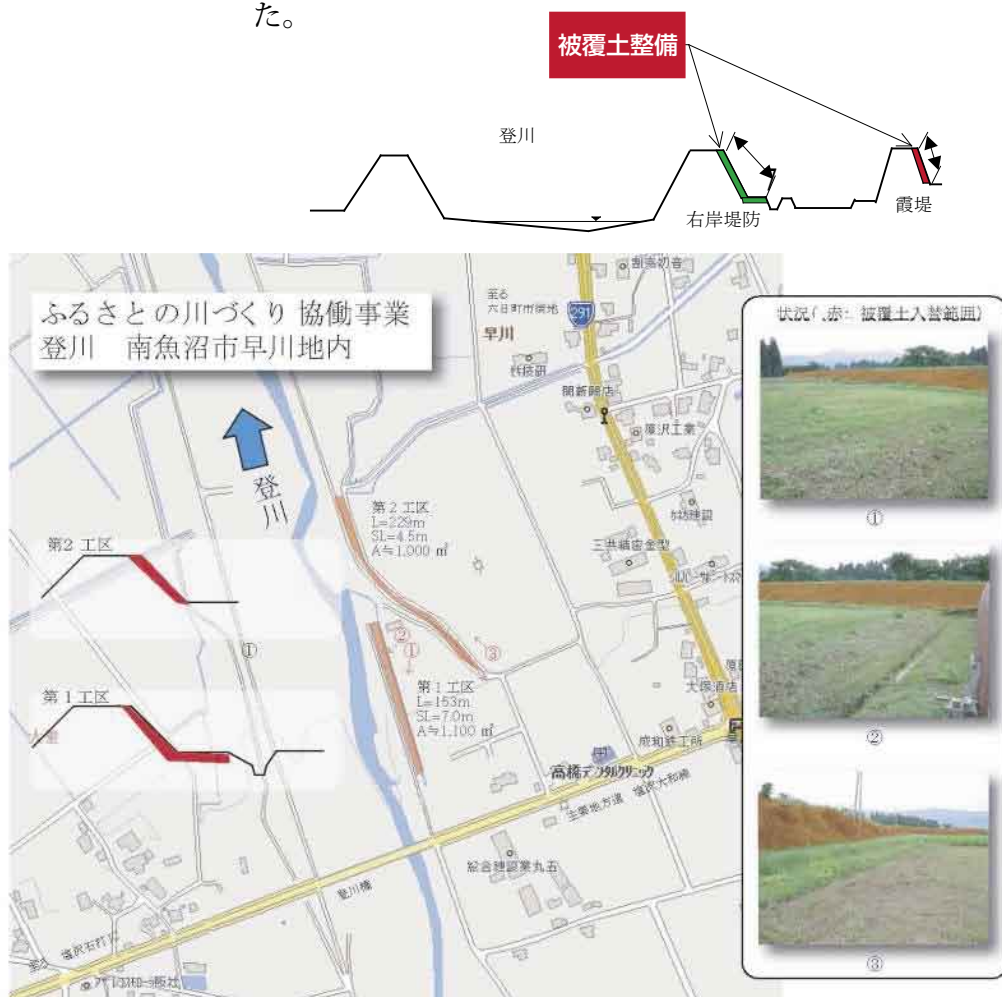
ポイント!

整備のきっかけとなった「地域ビジョン」は、地域住民が主体的に策定した計画である。担当課は地域振興局の企画振興部であるが、こうした他部局で進められた計画であっても、土木分野に関連する内容をしっかりと把握しておくことは非常に重要である。

地域ビジョンは、策定の経緯からして、地域の主体的な関わりが求められるため、住民側のやる気は比較的高い傾向にある。県民参加事業の「芽」は、こうした地域づくり計画の中にも眠っているケースは多い。

登川が流れる上田第一地区は、平成 13 年度に地域が主体となり自らが地域の将来像を現す「地域ビジョン」を策定し、地域の宝を活かした地域づくりが行われていた。この中で登川は、地域の重要な資源として周辺整備行動計画が立案され、これに基づき、地域住民が堤防の草刈りや、花の種まき、堤防小段へアジサイを植栽するなどの活動を実施してきた。ただ、整備計画は立案したものの、地域住民だけの活動に終始してしまい、なかなか活動の広がりには欠ける状況が続いていた。

そんな中、平成 18 年 9 月に上田第一地区の「早川村づくり委員会」から、一般国道 291 号から見渡せる堤防小段、法面への草花の種まきに関し、砂利が多く管理・植生に不向きである旨の相談を受けた。従前より地域住民が主体となり登川の環境を維持していることなどから、官民協働による維持管理を行うための基盤整備として、平成 19 年 10 月「ふるさとの川づくり協働事業」により被覆土を施工した。



登川（南魚沼市早川地内）の事例から学ぶ県民参加のポイント



ポイント！

地域ビジョンでは、登川の整備計画に関する内容も盛り込まれていたが、策定後は地域住民のみの活動に終始してしまっていた。そのため、県側から地域に「もっと外に向けてPRし、協力を求めてみてはどうか？」という投げかけを行っている。これに反応して、地元から要望が上がってきたのである。

地域ビジョンを策定している地域で、計画があっても具体的な進展が見られない場合には、行政側が少し後押しすることで、新たな動きが生まれるケースが往々にしてある。その後押しも、具体的な事業を提示するのではなく、「外部へ協力を求めてみては？」という助言だけでもよい。登川の事例は、わずかな行政側からの後押しによって地域が動き出した良い例である。

◎**事業の成果** 事業実施後の平成19年11月、「早川村づくり委員会」が被覆土の上に、むしろ等を敷く活動を実施し、次年度の本格的な植栽・種まきに備える準備を実施した。

(担当者からひとこと)

県民参加で大切なこと

県民参加型事業の場合、常日頃から地域の情報を掴んでおくことが大切である。幸い、南魚沼地域の場合、地元住民が行政側によく相談に来られるが、こうした相談が貴重な情報源であったりする。「幅広い情報源の確保」が、県民参加では特に重要だと思う。実際に地域に入っていく際、こうした情報（例：キーパーソンの有無、地域住民のやる気の高さ等）を踏まえ、動き方を考えていくケースが大半である。

また、地域情報の収集と同じぐらい重要なのが、「きっかけをどう作るか」である。魚野川や登川のケースは、行政側が地域に対して「きっかけ」を提供したことで、地域の主体的な活動が促された。地域の状況に応じて、ちょっとだけ手を差し伸べれば良いケースもある。

ふるさとの川づくり協働事業(登川・南魚沼市早川地内)のポイント

- 他の部局が担当する計画とその地域の活動状況を把握していた。
- 行政側のちょっとした働きかけが、地域から声をあげさせた。
- 地域の主体的な活動を更に後押しする整備を実施した。